

【Cover Letter】 神経難病患者にとって、リハビリテーションはまさに人生を支える介入であり、適切に行われる事で生活の質に大きな影響を与える。今回は、ICF¹⁾を用いてリハビリテーションの介入を行い、その有用性を実感したため、ここに報告する。

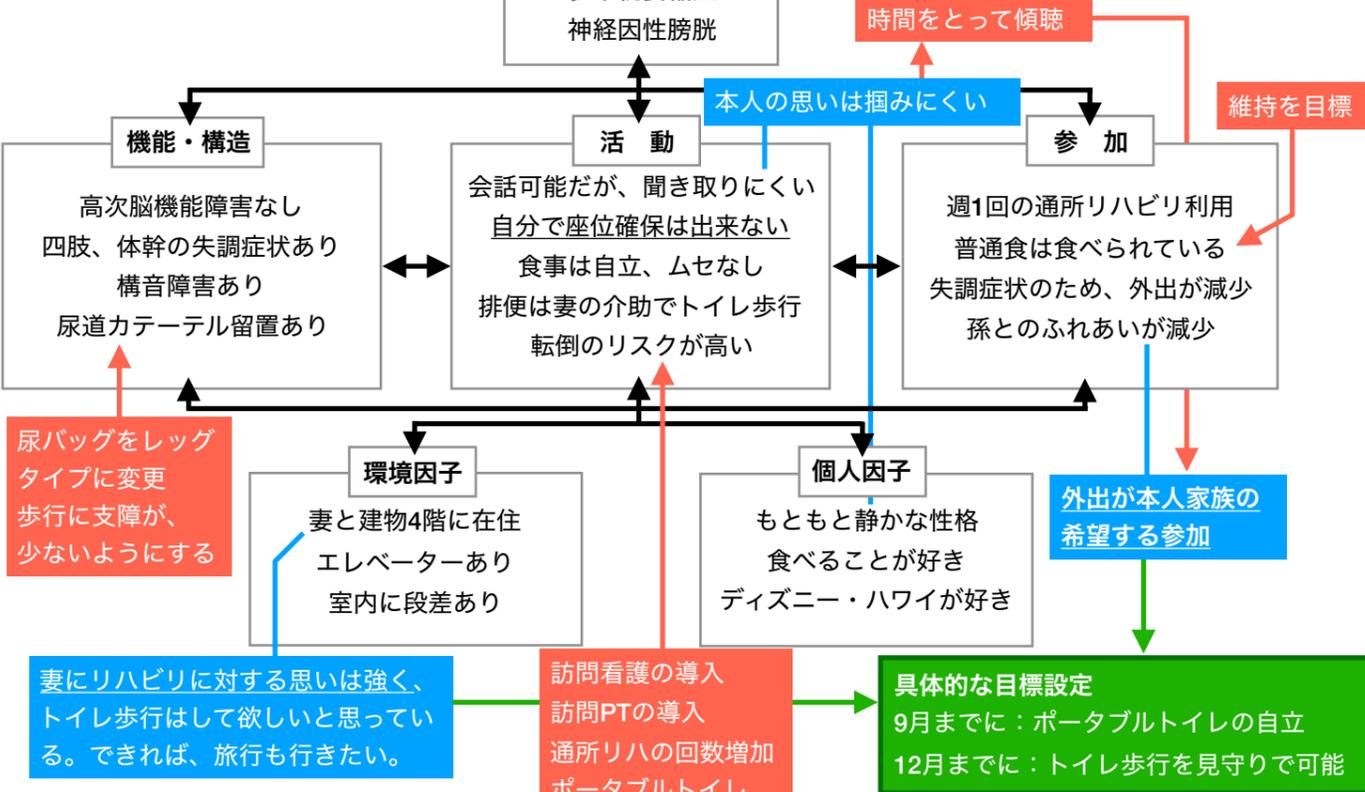
機能回復の希望を支えた症例

症例1 73歳 男性 多系統萎縮症

X-6年 足の出にくさ、手指の巧緻運動障害で発症
 X-4年 ふらつき、排尿障害などが出現。A病院受診し脊柱管狭窄症の診断
 X-3年 症状増悪し、B大学病院外来し、多系統萎縮症の診断となる
 X-2年8月、X-1年4月、プロチレリン点滴のため入院
 X年6月 通院困難となってきたため、当院に訪問診療目的で紹介となる
 介入当初、寝返りも自力でできない状態

家族背景
 最低でもトイレ歩行はできるようにしてください！
 同じマンション在住だが、子育てのため援助は不可
当初の印象
 妻のリハビリへの期待がとても強く、現状に見合っていない気がするな。

介入開始時のICF (X年6月)



その後の経過

介入当初は自分で座位もとれないような状態で機能回復の見込みは乏しい印象であった。にもかかわらず、妻のリハビリに対する思いが強く、目標設定に困難さを感じた。しかし、それまでは通所リハに週1回の利用のみであり、機能訓練によるADL改善の可能性もあると考え、まずはICFで全体を把握しつつ、本人と家族の希望に沿った目標設定を行った。訪問での理学療法の導入と通所リハビリの回数増加、訪問看護導入による介護サービスの調整、ポータブルトイレの導入により、約1ヶ月後には安全な自宅での生活は確立されたと考えられた。しかし、実際のADL自体の改善は軽度であり、短期目標の達成にも至ることができなかった。ただ、ある程度の筋力の改善に伴い、本人家族が希望したディズニーランドへ、車椅子での安全な外出ができた。

省察

リハビリテーションはただ単に機能回復を目指すために行われるのではない。特に神経難病患者にとっては、リハビリは機能回復・機能維持という面で希望をつなぐ治療であるが、最終的には徐々に機能障害が起こっていくことは避けられない。そんな中でも、いかに生活を支えるためのリハビリテーション介入ができるかが重要であると考え。今回の2症例は、当初はやや負の感情が湧いてきて、どのように介入すべきか判断に迷った症例である。そこでICFを用いることで、障害・制約・制限を多角的に評価し、「生きることの全体像」を把握することで、介入点を見出すことができた。特に症例2では、「長女や孫が気軽に遊びに来られる自宅にいるという参加をプラスの面として支えること」を介入ポイントとして気づけたことは、一つの大きな学びであった。その担当ケアマネがサービス担当者会議で言った「このおうち、本当にあったかいんですよ」という言葉が、とても印象的に心に残っており、在宅で人を支えることの奥深さ、やりがいについて改めて学ぶことができた。

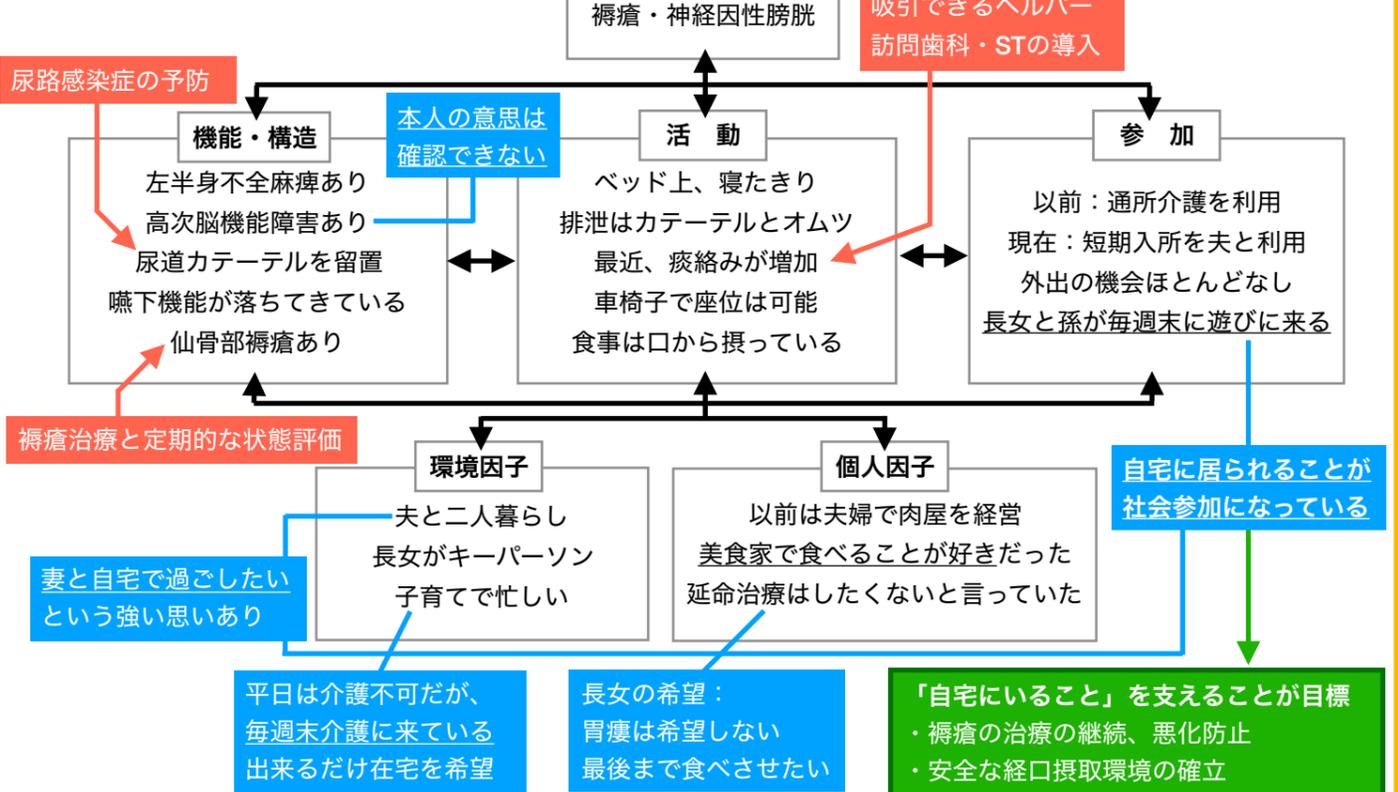
自宅にいるという「参加」を支えた症例

症例2 71歳 女性 進行性核上性麻痺

X-1年 夏ころからよく転倒するようになり、通所介護を利用
 X年1月 進行性に動けなくなり、褥瘡が発生し悪化傾向あり
 X年2月 褥瘡に対して、当院訪問診療開始
 X年6月 病院に検査入院し、上記診断となる
 X年7月 退院後、サービス担当者会議を実施

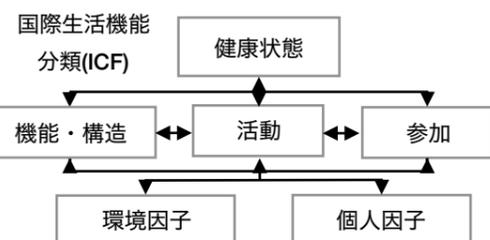
家族背景
 夫は脳梗塞で半身麻痺あり。
 訪問時は、夫が通所介護を利用中であり、患者は暗く無音の部屋に一人で寝ている。
 6才 3才
当初の印象
 こんな環境で自宅にいることになんかの意味があるんだろう。不憫だ。

退院時のICF (X年7月)



その後の経過

介入当初は、訪問診療時は夫が通所介護利用のため居らず、患者本人が暗い家で一人でベッドで寝たきり状態で、とても不憫に思った。しかし、サービス担当者会議を開き、夫や長女の思いを聞き、ICFで全体像を把握すると、自宅にいることを支えるということが、本人や家族にとってとても大きな意味を持つことに気づき、それを多職種で支えることのやりがいを感じた。診断が確定したため難病制度を利用し訪問看護師を毎日2回に増やすことで褥瘡感染・尿路感染症を防ぎ、訪問歯科や言語聴覚士、吸引ができる介護士を導入することで誤嚥性肺炎を防ぎ、長女の思いである最後まで食べさせてあげたいという願いを実現しつつ、最後は自宅看取りとなった。



next step

高齢者に対する摂食・嚥下の介入についてもICFを用いることが有用ではないかと感じ、次回以降活用してみたい。

参考文献：1) 上田敏. ICFの理解と活用. 萌文社, 2005, pp.15-17.